

韓国の2007年改訂教育課程および日本の学習指導要領における英語教育に関する比較

カレイラ 松崎 順子

1. はじめに
2. 韓国における小学校への英語教育の導入までの経緯と現状
3. 日本における小学校外国語活動の導入までの経緯と現状
4. 2007年改訂教育課程および学習指導要領
5. 各学年の達成基準や指導内容
6. 考察
7. まとめ

など周到な準備のもとに英語教育が導入された(樋口、2005)。ゆえに、本研究では英語教育において日本と韓国が小学校と中学校においてどのような一貫した方針を提示しているのかについて、韓国の2007年改訂教育課程と日本の学習指導要領を比較検討していき、日本が韓国の2007年改訂教育課程からどのようなことを学ぶことができるのかを示唆していく。

キーワード: 韓国、日本、2007年改訂教育課程、学習指導要領、英語教育

1. はじめに

日本では2008年3月28日に小学校学習指導要領を改訂し、小学校5年生および6年生に外国語活動が必修化されることが発表され、2009年からの移行措置を経て、2011年から全国の公立小学校で外国語活動が実施されるようになる。しかし、解決しなければならない多くの問題が山積みである。その中で最も懸念されていることのひとつが英語教育における小・中学校の連携である(カレイラ、2010)。

一方、先駆けて小学校において英語教育を行っている韓国では、1997年に小学3年生から英語を正規教科として取り入れており、小・中・高一貫の教育課程の確立、国定教科書や教材の開発、充実した教員養成、および研修制度

2. 韓国における小学校への英語教育の導入までの経緯と現状

韓国では1954年以降、さまざまな教育改革がなされてきた。第1次教育課程(1954～1963)から始まり、第2次教育課程(1963～1974)、第3次教育課程(1974～1981)、第4次教育課程(1981～1987)、第5次教育課程(1988～1991)、第6次教育課程(1992～1996)と続き、1997年12月30日に第7次教育課程が告示された(河合、2004)。

韓国の小学校における英語教育は、1972年一部の指定学校で特別活動の時間に行われ、第4次教育課程がはじまる1981年より教育改革の一環として小学4年生以上を対象に「特別活動」のなかで始まった(金、2007; 師子鹿、2009)。1980年代の韓国は経済的に大きく発展し、1988年に第42回オリンピックがソウルで開催されるなど、韓国が国際化にむけて真剣に取り組み始めた時代である(師子鹿、2009)。

そのような中、小学校における英語教育は第5次教育課程がはじまる1988年に学校ごとに自由な学習活動を行うことができる「裁量時間」を利用しながら主に小学5・6年生を対象に実施された。さらに、1995年11月に、1997年から小学校において英語を正規の必修科目とすること、小学3年生から学年進行で段階的に導入することが告示され、その後2年間の複数の研究校における試験実施が行われたのち、第7次教育課程が1997年に制定された（師子鹿、2009）。

第7次教育課程は小・中・高一貫を目指しており、小学1年生から高校1年生は「国民共通基本教育課程」として一貫性のあるカリキュラムを編成し、高校2年生から高校3年生は「選択中心教育課程」という水準別授業を実施した（教育部、1997）。小学校においては共通課程の「基本課程」のほか「深化・補充型水準別教育課程」を導入して能力別授業を推奨している。「深化・補充型水準別教育課程」は児童が能力と個人差に応じて教育を受けることができるように、基本課程の達成水準に達しない児童を対象とする「補充課程」と基本課程の達成水準に達した児童を対象とする「深化課程」に分かれている（教育部、1997）。

また、必修化導入時の1997年は第6次教育課程が適用されており、当初、小学校において、英語は週2時間（1授業時間は40分）実施されることになった。しかし、2001年から開始された第7次教育課程において「裁量時間」が「裁量活動」に改称されるとともに従来の週0～1時間から週2時間に拡大されたことに伴い、英語の授業時間数が小学3年生から小学4年生では週1時間に減った。なお、小学5年生から小学6年生では週2時間実施されている。したがって、英語の年間実施時数は、小学3年生から小学4年生で34時間、小学5年生から小学6年生で68時間である（教育部、1997）。

さらに、2007年に第7次教育課程が10年ぶりに改訂され、2009年から随時施行されている。第7次教育課程では、小学3年生は「聞く」「話す」のみで、小学4年生で「読む」を開始し、「書く」は、小学5年生から導入されていたが、2007年の改訂で、「読む」が小学3年生に、「書く」が小学4年生に導入されることになった。さらに、第7次教育課程では「基本課程」と「深化課程」に分かれ、児童の水準に応じて多様な教授法を展開するというものであったが、2007年の改訂では「深化課程」を廃止し、すべての児童が習得すべき基本事項のみを記載している（教育人的支援部、2007）。

3. 日本における小学校外国語活動の導入までの経緯と現状

日本では1986年4月、臨時教育審議会は中学校、高等学校等における英語教育が文法知識の修得と読解力の養成に重点が置かれ過ぎているため、学習者の多様な能力・進路に適應するよう教育内容等を見直すとともに、英語教育の開始時期についても検討を進めるべきであると、英語教育の開始時期の見直しを行った（文部科学省、2008）。1992年以降、研究開発学校を中心に国際理解教育の一環としての英語教育を実験的に導入し、1996年7月の第15期中央教育審議会第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において、「小学校における外国語教育については、教科として一律に実施する方法は採らないが、国際理解教育の一環として、『総合的な学習の時間』や特別活動などで地域や学校の実態等に応じて、英会話等に触れる機会や外国の生活・文化に慣れ親しむ機会を持たせることができるようにすることが適当である」（文部科学省、2008、pp.3-4）と発表した後、1998年に改訂された学習指導要領により、子どもの興味・関心等に基

づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う「総合的な学習の時間」を創設し、各小学校では「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉」、「健康」などそれぞれの学校の実態に応じた学習活動を行ってきた。その中の「国際理解」を進める具体的な学習活動として「外国語会話」、「国際交流活動」、および「調べ学習」があげられており、小学校の英語活動の位置づけが以下のようになされている（文部科学省、2001、pp.2-3）。

「外国語会話」とは、諸外国の様々な言葉を使った意思の疎通を図るための会話である。現在、世界の多くの場面で使用されている言語であることや子どもが学習する際の負担等を考慮して、この手引では、英語を取り上げることとした。小学校においては、子どもの発達段階に応じて、歌、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなどを通して、身近な、そして、簡単な英語を聞いたり話したりする体験的な活動を中心に授業が構成されることから、この手引では、「総合的な学習の時間」で扱う英会話を「英語活動」と呼ぶこととした。

また、英語活動のねらいと活動の在り方として以下の4つがあげられた。

(1) 小学校における「英語活動」のねらい

児童期は、新たな事象に関する興味・関心が強く、言語をはじめとして、異文化に関しても自然に受け入れられる時期にある。このような時期に英語に触れることは、コミュニケーション能力を育てる上でも、国際理解を深める上でも大変重要な体験になる。「英語活動」そのものが異文化に触れる体験となり、さらに、外国の人や文化にかかわろうとするとき的手段として、英語を活用しようとする

態度を育成することにもつながる。すなわち、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である（文部科学省、2001、p.3）。

(2) 子どもの日常生活に身近な英語を扱う

中学校の英語の指導内容は、中学生の発達段階に応じて系統立てて構成されている。中学生期と児童期の発達段階の差や「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえると、中学校の学習内容を先取りするようなことは避けなければならない。小学校では、子どもの日常生活の中の身近な英語を扱うことに重点を置き、楽しさの中に英語に慣れ親しむことができるように工夫することが大切である（文部科学省、2001、p.3）。

(3) 音声を中心とした活動を行う

コミュニケーションは、主に音声と文字を媒体として行われる。しかし、英語の文字と音声を同時に媒体として意思の伝達を図ろうとすることは、小学校の子どもにとっては、負担が大き過ぎて、英語嫌いを生み出すことにつながる。小学校において子どもが英語に慣れ親しんでいく過程を観察してみると、英語の音声だけで十分にコミュニケーションを図ることができると言える。さらに、音声による言葉だけでなく身振り手振りや表情などによっても、意思を伝達できるものである（文部科学省、2001、p.4）。

(4) 英語活動で取り入れる学習内容と活動

教師は、学習内容をまず決める必要がある。学習内容の選択に当たっては、初めに子どもの思いや願いをとらえなければならない。初めて英語に触れる子どもた

ちが持っている好奇心や期待感を教師がとらえることから学習内容の選択が始まる。子どもの期待に沿うような学習活動を展開し、子どもの主体的な活動への参加を促すことが大切である(文部科学省、2001、p.4)。

以上のような方針のもと全国で様々な英語活動が行われてきたが、2008年1月中央教育審議会において以下のような答申が発表された。

小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とする外国語活動については、現在、各学校における取組に相当ばらつきがあるため、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。その場合、目標や内容を各学校で定める総合的な学習の時間とは趣旨・性格が異なることから、総合的な学習の時間とは別に高学年において一定の授業時数(年間35単位時間、週1コマ相当)を確保することが適当である(文部科学省 a、2008、p.5)

文部科学省は、この答申を受けて、2008年3月28日に小学校学習指導要領を改訂し、小学校5年生および6年生に外国語活動が位置付けられた。2009年からの移行措置を経て、平成2011年から外国語活動が全国の公立小学校で実施されるようになる。

4. 2007年改訂教育課程および学習指導要領

上述したように、約10年遅れで日本は小学校

に英語教育が正式に導入されることになったが、現行の韓国の教育課程と日本の学習指導要領ではどのように異なるであろうか。以下では韓国の2007年改訂教育課程および日本の2008年に発表された学習指導要領の比較を行う。

4.1. 韓国の2007年改訂教育課程の目標

韓国の2007年改訂教育課程では「初等学校の英語は英語に対する興味と関心を持って、日常生活で使う基礎的な英語を理解して表現する能力を育てるのを目標にする」と記載されており、以下の4点を具体的な目標としてかかげている(教育人的支援部、2007、p.4)。

1. 英語に対し興味と関心を持つ。
2. 基礎的な英語使用に対する自信を持つ。
3. 日常生活において英語で基礎的なコミュニケーションができる土台を築く。
4. 英語学習を通じて他の国の慣習や文化を理解する。

一方、「中等学校の英語は初等学校で習った英語を土台に日常生活と一般的な主題に関して基本的な英語を理解して表現できる能力を育てるのを目標にする」と記載されており、以下の4点を具体的な目標としてかかげている(教育人的支援部、2007、p.4)。

1. 英語でコミュニケーションすることに対する必要性を認識する。
2. 日常生活と一般的な主題に関して効果的にコミュニケーションする。
3. 英語による外国の多様な情報を理解して、これを活用する。
4. 英語学習を通じて多様な文化を理解して、自国の文化を英語で紹介する。

小学校では、英語に対する興味と関心や自信を持ち、英語で基礎的なコミュニケーションができる土台を築くという目標から、中学校では英語でコミュニケーションすることに対する必

要性を認識し、様々なことを英語でコミュニケーションができるようになるという目標が変わっている。さらに、文化に関しては小学校では、他の国の文化を理解することのみが目標として掲げられているが、中学校では韓国の文化を英語で紹介できるようになることも目標として明記されている。

4.2. 日本の学習指導要領

日本の小学校の外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」(文部科学省、2008a、p.8) というもので、以下の3点から成り立っている。

1. 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
2. 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
3. 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

一方、日本の中学校の英語教育の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」(文部科学省、2008b) というもので、以下の4点から成り立っている。

1. 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
2. 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
3. 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。

4. 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

日本の小学校の外国語活動においては「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」「外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」という目標があげられており、小学校の外国語活動があくまでもコミュニケーションを図ろうとする態度の育成や英語に慣れ親しむことが目標であり、具体的にコミュニケーションができるようになるということが目標ではないことがわかる。中学校では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について明記されており、初歩的な英語を理解し、使えるようになることが目標であることが明記されている。

5. 各学年の達成基準や指導内容

以下では韓国の2007年改訂教育課程および日本の学習指導要領の各学年の達成基準や指導内容の比較を行う。

5.1. 韓国の各学年の達成基準

「聞く」の達成基準

教育人的支援部(2007、pp.6-13)は、2007年改訂教育課程において「聞く」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

小学3年生

- 英語の声と強勢、リズム、抑揚を聞いて識別する。
- 身近な単語を聞いて理解する。
- 挨拶などの表現ややさしい慣用的表現を理解する。
- 1文の簡単な指示、命令により行動する。
- 1文を聞いて該当する絵を探す。
- 短くてやさしい内容のチャンツや歌を

聞いて理解する。

- やさしくて簡単なゲームや遊び内容を聴いて理解する。
- 個人の日常生活に関するやさしくて基礎的な対話を聞いて理解する。

小学4年生

- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて理解する。
- 身近な事物と人に関するやさしくて簡単な話を聞いて理解する。
- 1～2文の指示や命令を聞いて行動する。
- やさしくて簡単な対話を聞いて、対話が起きた場所と時間などが分かる。
- やさしくて簡単な役割遊びの内容を理解する。
- やさしくて明瞭な説明を聞いて単純な課題を遂行する。

小学5年生

- 過去のことにに関する簡単な文章を聞いて理解する。
- やさしくて簡単な対話を聞いて主要内容を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて状況を理解する。
- 基礎的な電話の対話を理解する。
- 絵と実物に関する説明を聞いて理解する。
- 簡単な内容の説明を聞いて課題を遂行する。

小学6年生

- 簡単な話や対話を聞いて中心的な内容を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて細部事項を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて事件が起きた順序が分かる。
- 前に起きたことにに関する簡単な話を聞

いて理解する。

- 理由を聞いて答えるやさしくて簡単な対話を聞いて理解する。
- 対象を比較するやさしい話や対話を聞いて理解する。
- 日常生活に関する簡単な内容の話や対話を聞いて意図や目的を理解する。
- 簡単な電話の対話を理解する。

中学1年生

- 語調や抑揚で話者の感じや情緒を把握する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて要旨を把握する。
- 過去、現在、未来に関する日常生活に関連した話や対話を聞いて理解する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて細部事項を把握する。
- 簡単な話や対話を聞いて事件の順序を理解する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて状況および話者間の関係を把握する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて課題を遂行する。

中学2年生

- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて状況を把握する。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて主題および要旨を把握する。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて話者の意図を把握する。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて細部事項を把握する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて脈絡で状況を推測する。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内

容の話や対話を聞いて原因と結果を把握する。

- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて話者の態度や感情を把握する。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて課題を遂行する。

中学3年生

- 一般的主題に関する話や対話を聞いて状況を把握する。
- 一般的主題に関する話や対話を聞いて主題および要旨を把握する。
- 一般的主題に関する話や対話を聞いて細部事項を把握する。
- 一般的主題に関する話や対話の一部を聞いて脈絡で状況を推測する。
- 一般的主題に関する話や対話を聞いて原因と結果を把握する。
- 一般的主題に関する話や対話を聞いて話者の態度や感情を把握する。
- 簡単な話を聞いてその結末を推測する。
- 比較的長い指示や説明を聞いて手続きに合うように課題を遂行する。

小学3年生においては、簡単な単語を聞いて理解し、挨拶などの定型文や1文の簡単な指示、命令が理解できることが目標とされているのに対し、小学4年生ではやさしくて簡単な対話を聞いて、対話が起きた場所と時間などが分かる、簡単な対話が理解できるなどが目標となっている。さらに、小学5年生では過去に関する文章を理解し、簡単な話や対話を聞いて状況を理解し、基礎的な電話の対話を理解するなどより難しい内容が理解できるようになることが目標となっており、小学6年生では簡単な話や対話を聞いて事件が起きた順序や対象を比較するやさしい話や対話を聞いて理解するなどより複雑な英語を理解できることが目標となっている。中

学1年生になると日常生活に関する話や対話を聞いて理解することが、中学2年生では一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を理解できることが目標となり、さらに中学3年生では一般的主題に関する話や対話を聞けるようになることが達成基準となっており、学年があがるにつれて、扱う内容が徐々に広がっている。

「話す」の達成基準

教育人的支援部(2007、pp.6-13)は、2007年改訂教育課程において「話す」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

小学3年生

- 英語の強勢、リズム、抑揚に合うように話す。
- 身近な単語の名前をいう。
- 挨拶などの慣用的表現をいう。
- 実物や絵を見て単語や1文で話す。
- 個人の日常生活に関してやさしくて簡単な表現を聞いて答える。
- 短くてやさしい内容のチャンツや歌をまねる。
- やさしくて簡単なゲームや遊びに参加する。

小学4年生

- 日常生活でしばしば使われる慣用的表現をいう。
- 実物や絵を見て文で話す。
- 身近な事物と人に関して1～2文で話す。
- 1文からなる指示や命令をいう。
- やさしくて簡単な役割遊びに参加して適切な話と行動をする。

小学5年生

- やさしくて簡単な表現を使って状況と目的に合うように聞いて答える。
- 日常生活に関してしばしば使われる慣

用的表現を状況と目的に合うように使う。

- やさしくて簡単な対話を聞いて主要内容をいう。
- 2～3の連続した文で命令や要請をする。
- 過去のことにして簡単に話す。
- 基礎的な電話の対話を行う。

小学6年生

- 日常生活に関するやさしくて簡単な話や対話を聞いてその内容に関して対話する。
- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて主要内容をいう。
- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて細部事項をいう。
- 日常生活に関する理由を尋ねる言葉に簡単に答える。
- 絵や漫画の内容を順に話す。
- 前にするべきことに関して簡単に対話する。
- 簡単な電話の対話を行う。

中学1年生

- 周辺の事物と人に関して簡単に描写する。
- やさしくて簡単な問題を解決するために他の人と情報を交換する。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて主要内容をいう。
- 日常生活に関する事件を順に話す。
- 日常生活に関する短い文を読んで原因と結果をいう。
- 自身の経験や計画に対して簡単に話す。

中学2年生

- 好きな人や尊敬する人に関して簡単に描写する。
- 日常生活と関連した実物、絵、表など

の資料を簡単に説明する。

- 一般的な主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて、その内容に関して聞いて答える。
- 簡単な手続きや方法を聞いて答える。
- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の話や対話を聞いて自身の経験と関連させて話す。
- 異なる文を読んでその差異点をいう。

中学3年生

- 一般的主題に関する話や対話を聞いて要旨をいう。
- 一般的主題に関する簡単な図表や絵を説明する。
- 日用品の使用法と同じ簡単な内容を順序に合うように説明する。
- 学習した対話文を活用してロールプレーを行う。
- 親近感が持てる話に関して自身の考えや感じたことを話す。
- 短い話を聞いて結末を完成して話す。
- 親近感が持てる主題に関する文を読んで自身の意見をいう。
- 相互作用を通じてやさしくて簡単な課題を遂行する。

「話す」の各学年の達成基準は「聞く」とほぼ同様の範囲であり、小学3年生では身近な単語の名前や挨拶などの慣用的表現をいうなど、小学3年生で「聞く」の達成基準であるものが話せるようになることが目標として設定されている。小学4年生では日常生活で使われる慣用的表現や身近な事物と人に関して1～2文で話すなど小学4年生の「聞く」における目標を話せるようになることが達成基準になっている。小学5年生になると2～3の連続した文が話せるようになり、さらに過去のことが言えるようになるなど表現できる範囲が広がっていく。小学6年生では簡単な対話を聞いて、その内容や

細部事項が言えるようになり、絵や漫画の内容を順に話せるようになるなどさらに高度な内容が話せるようになることが目標となっている。中学1年生では「日常生活に関する話や対話を聞いて主要内容をいう」「日常生活に関する事件を順に話す」など日常生活に関することを話せるようになることが目標になっており、中学2年生では、一般的な主題に関する親近感が持てる内容を話せることが、中学3年生では一般的な主題に関する話や対話を話せるようになることが達成基準となっている。

「読む」の達成基準

教育人的支援部(2007、pp.6-10)は、2007年改訂教育課程において「読む」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

小学3年生

- アルファベットの大きい文字・小さい文字を識別する。
- 絵、実物、動作等を通してやさしくて簡単な単語を認識する。

小学4年生

- アルファベットの大きい文字・小さい文字を識別して読む。
- やさしくて簡単な単語について読む。
- 音と綴りとの関係を概略的に理解する。
- 絵、実物、動作等を通してやさしくて簡単な単語の意味を理解する。

小学5年生

- やさしくて簡単な単語を声に出して読む。
- 音と綴りの関係を理解する。
- やさしくて簡単な単語の意味を理解する。
- 聞いた単語と一致する単語を探して読む。
- 簡単な語句を読む。

- 口頭で習った語句を読む。

小学6年生

- 口頭で習った文章を読む。
- やさしくて簡単な語句や文章を読んで意味を理解する。
- やさしくて簡単な文章を声に出して適切に切って読む。
- 聞いた文章と一致する文章を探して読む。
- 日常生活に関する短くてやさしい文を読んで理解する。

中学1年生

- 分からない単語や語句を事前に探して意味を理解する。
- 日常生活に関する短い文を読んで主題および要旨を把握する。
- 日常生活と関連した図表が含まれた文を読んで理解する。
- 個人生活を紹介する簡単な文を読んで理解する。
- 日常生活に関する短い文を読んで細部事項を把握する。
- 日常生活に関する短い文を読んで原因と結果を把握する。
- 短い文を読んで単語や語句の意味を文脈で推測する。
- 短い文を読んで文の順序を把握する。

中学2年生

- 絵や図表が含まれた一般的な主題に関する短い文を読んで理解する。
- 指示文を読んで手続きと方法を理解する。
- 一般的な主題に関する親近感が持てる内容の文を読んで主題および要旨を把握する。
- 一般的な主題に関する親近感が持てる内容の文を読んで書いた人の意図を把握する。

- 一般的主題に関する親近感が持てる内容の文を読んで細部事項を把握する。
- 簡単な文を読んで続く内容を予測する。
- 互いに違う立場を現わす文を読んで比較、対照する。

中学3年生

- 一般的主題に関する文を読んで細部事項を把握する。
- 広告文を読んで細部事項を把握する。
- 一般的主題に関する文を読んで書いた人の意図を把握する。
- 一般的主題に関する文を読んで原因と結果を把握する。
- 一般的主題に関する文を読んで文の雰囲気把握する。
- 一般的主題に関する文を読んで続く内容を予測する。
- 一般的主題に関する文を読んで結論を予測する。
- 一般的主題に関する文を読んで文の連結関係を把握する。
- 文の展開順序や論理的構造などを理解する。

「読む」に関しては小学3年生ではアルファベットの認識や簡単な単語を認識することが目標となっているが、小学4年生になるとそれらを読めるようになることが目標となる。また、小学5年生になると簡単な語句や口頭で習った語句を読むなど様々な語句が読めるようになることが目標となり、小学6年生ではやさしくて簡単な文章を読めるようになることが達成基準となっている。中学1年生では概して日常生活に関する短い文を読んで理解できるようになることが達成基準となっており、中学2年生では一般的主題に関する親近感が持てる内容の文を読んで理解できるようになることが、さらに、中学3年生になると一般的主題に関する文を読

んで理解することが達成基準となっており、「聞く」「話す」とほぼ同様の範囲が各学年に記載されている。

「書く」の達成基準

教育人的支援部（2007、pp.6-10）は、2007年改訂教育課程において「書く」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

小学4年生

- アルファベットの大文字・小文字を見て書く。
- 口頭で習った単語を書く。

小学5年生

- 音と綴りの関係を基礎にしてやさしい単語を聞いて書く。
- 実物や絵に該当する単語を書く。
- 学習した単語を聞いて書き取る。
- やさしい単語を覚えて書く。

小学6年生

- 口頭で習った語句や文章を書く。
- 例示文を参考にして実物や絵を1文で描写して書く。
- 文章中で大文字・小文字と句読点を正しく使う。
- やさしくて簡単な誕生日カードや感謝カードを書く。

中学1年生

- 学習した文章を聞いて書き取る。
- 自身や家族などに関する写実的な質問に答えを書く。
- アルファベットの筆記体の大文字・小文字を書く。
- 単語や語句を入れて文章を完成する。
- 例示文を参考にして実物や絵に関することを簡単に書く。
- 綴字法および語法に合うように文章を書く。

中学2年生

- やさしい文章で日記を書く。

- 自身や家族などを紹介する簡単な文を書く。
- 与えられた単語を活用して文章を完成する。
- 簡単な話を読んで主人公や時制などを変えて書く。
- 簡単な対話文を読んで与えられた答が出てくる質問を作る。
- 家庭、学校、趣味、生活などを紹介する簡単な手紙を書く。
- 誤りがある短い文を綴字法および語法に合うように直して書く。

中学3年生

- 日常生活で感じて考えることを日記で書く。
- 短い文を読んで結末を完成する。
- 例示文を参考にして文章や段落を変えて書く。
- 日常生活に関する話や対話を聞いて必要な情報を記録する。
- やさしい文を読んで要旨を書く。
- 実物、写真、絵を見て自身の考えや感じを簡単に書く。
- 本を読んだり映画を見て簡単な感想を書く。

「書く」に関しては小学4年生ではアルファベットや習った単語が書けるようになることが目標となっているが、小学5年生では学習した単語を聞いて書き取るや音と綴りの関係を基礎にして書けるようになるなど、単語がしっかり書けるようになることが目標となっている。小学6年生では口頭で習った語句や文章などが書けるようになることが達成基準となっている。中学1年生では「学習した文章を聞いて書き取る」や「例示文を参考にして実物や絵に対し簡単に書く」など簡単な文章が書けるようになることが達成基準となっており、中学2年生では「自身や家族などを紹介する簡単な文を書く」

や「家庭、学校、趣味、生活などを紹介する簡単な手紙を書く」など身近なことが書けるようになることが、中学3年生になると「日常生活で感じて考えることを日記で書く」や「本を読んだり映画を見て簡単な感想を書く」など、より幅広いことが書けるようになることが達成基準となっている。

5.2. 日本の小学校・中学校および各学年の達成基準および教授内容

日本の小学校の外国語活動では小学5年生・小学6年生の2学年を通じて以下のような達成基準や教授内容が示されている（文部科学省 a、2008、pp.10-11）。

1. 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
2. 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 - (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

また、児童の学習段階を考慮して各学年の指導に当たっては、配慮することが次のように示

されている（文部科学省 a、2008、p.28）。

ア 第5学年における活動

外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

イ 第6学年における活動

第5学年の学習を基礎として、友達とのかかわりを大切にしなが、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

2008年に発表された新しい学習指導要領では、中学校の言語活動に関する部分は以下のよう記載されている（文部科学省、2008b）。

(1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。

(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。

(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。

(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

(エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。

(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。

(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。

(エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ち

ちなどを書くこと。

- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

なお、各学年の指導に関しては以下のよう
な配慮点が記載されている（文部科学省、
2008b）。

(ア) 第 1 学年における言語活動

小学校における外国語活動を通じて音声
面を中心としたコミュニケーションに対す
る積極的な態度などの一定の素地が育成さ
れることを踏まえ、身近な言語の使用場面
や言語の働きに配慮した言語活動を行わせ
ること。その際、自分の気持ちや身の回り
の出来事などの中から簡単な表現を用いて
コミュニケーションを図れるような話題を
取り上げること。

(イ) 第 2 学年における言語活動

第 1 学年の学習を基礎として、言語の使
用場面や言語の働きを更に広げた言語活動
を行わせること。その際、第 1 学年におけ
る学習内容を繰り返して指導し定着を図る
とともに、事実関係を伝えたり、物事につ
いて判断したりした内容などの中からコ
ミュニケーションを図れるような話題を取
り上げること。

(ウ) 第 3 学年における言語活動

第 2 学年までの学習を基礎として、言語
の使用場面や言語の働きを一層広げた言語
活動を行わせること。その際、第 1 学年及
び第 2 学年における学習内容を繰り返して
指導し定着を図るとともに、様々な考えや
意見などの中からコミュニケーションが図
れるような話題を取り上げること。

小学校の外国語活動では小学 5 年生では日常
生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達
とのかかわりを大切にした体験的なコミュニ

ケーション活動を行い、小学 6 年生は国際理解
にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニ
ケーション活動を行うなど国際交流に関する
ことが記載されており、あくまでも体験や交流を
通して、コミュニケーションを行いたいという
素地を作ることが目標なことがわかる。中学校
では「聞く」「話す」「読む」「書く」における
具体的な目標が明示されており、配慮点として
中学 1 年生では「自分の気持ちや身の回りの出
来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニ
ケーションを図れるような話題を取り上げるこ
と」が、中学 2 年生になると「事実関係を伝え
たり、物事について判断したりした内容など
の中からコミュニケーションを図れるような話題
を取り上げること」となり、中学 3 年生では
「様々な考えや意見などの中からコミュニケー
ションが図れるような話題を取り上げること」
と学年があがるにつれて学習内容がより多様
になっている。一方で「第 1 学年及び第 2 学年
における学習内容を繰り返して指導し定着を図
るとともに、様々な考えや意見などの中からコ
ミュニケーションが図れるような話題を取り上
げること」と記載されているように、中学 1・
2 年生で学習したことを繰り返し学習すること
により、知識の定着を図ることを重要視してい
ることがわかる。

6. 考察

ここでは上述した韓国の 2007 年改訂教育課
程と 2008 年に発表された学習指導要領を比較
し議論していく。

目標に関しては、文化に関する記述など細か
い違いは見られるが、韓国の 2007 年改訂教育
課程および日本の学習指導要領ともに小学校で
は英語で基礎的なコミュニケーションができる
土台を築き、中学でさらにそれを発展させてい
くという方針においてはあまり違いがないよう

である。一方、学年別の達成基準や内容などに関してはいくつかの相違点が見られる。たとえば、韓国の2007年改訂教育課程は各学年の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の目標が明確化されており、学年があがるにつれて徐々に難しくなり、扱う範囲などが広がっていくのがわかる。すなわち、小学3年生から小学6年生までの間に基礎を築き、中学1年生では日常生活に関することを、中学2年生では一般的主題に関する親近感が持てる内容に関することを、さらに、中学3年生では一般的主題に関することと学年があがるにつれて扱う内容が児童の身近なものから徐々に広がっていくのがわかる。また、韓国の2007年改訂教育課程には目標とする学習者像が日本の学習指導要領よりわかりやすく記載されている。たとえば、中学3年生の「話す」では「一般的主題に関する簡単な図表や絵を説明する」「日常用品の使用法と同じ簡単な内容を順序に合うように説明する」などより具体的で、将来的に必要となるような実用的なことを達成基準とあげている。

一方で、日本の学習指導要領においては小学校では2年間、中学校では3年間の達成基準や学習内容がまとめて記載されており、各学年の配慮点のみ学年別に記載されている。しかも、日本の学習指導要領では達成基準や内容が韓国と比べて曖昧なものが多く、目標とする学習者像が浮かびにくい。特に、小学校の外国語活動はコミュニケーションを行いたいという素地を作ることが目標であるが、小学校卒業時点でどの程度英語でコミュニケーションできるのか、小学校で学習した内容が中学校の「聞く」「話す」「読む」「書く」にどのように連携されているのかなど曖昧である。

また、韓国の2007年改訂教育課程と日本の学習指導要領を比較しただけでも、中学3年生の時点で明らかに韓国の児童の英語力のほうがはるかに高いのではないかという予測が容易に

つく。日本のように現場の裁量に任されている部分が多い学習指導要領が一概に悪いというわけではないが、外国語活動が導入されたばかりの小学校では何を教えたらいのか現場の教員が困ることも多いであろう。外国語活動が小学校で必修化される以上、韓国のように達成基準が可視化されている体系化された指導要領のほうが教師も教えやすく、また、学習効果も高くなるのではないかと思われる。

7. まとめ

日本は2011年から外国語活動が全国の公立小学校で実施されるようになるが、まだまだ実験的な段階であるという印象は否めない。韓国の2007年改訂教育課程および日本の学習指導要領を比較しただけでも、明らかに韓国の2007年改訂教育課程のほうが体系的に提示されており、どのような英語力を身につけてほしいのか具体的であり、目標とする学習者像も容易に可視化できる。アジアにおいて英語における後進国とならないためにも、日本はこの現状をよく理解し、小学校および中学校でどのような英語教育を行うべきであるのか、どのように小学校および中学校を連携させていくべきかなどを今後より検討していくべきであろう。

引用文献

- カレイラ松崎順子「韓国教育放送公社における英語の学校放送番組分析」東アジア研究、第53号、2010年、pp.127-139.
- 河合忠仁『韓国の英語教育政策—日本の英語教育政策の問題点を探る—』関西大学出版部、2004年
- 金泰勲「韓国の初等学校における英語教育の現状と課題」『日本大学教育学会』42、2007年、pp.75-94.
- 教育人的支援部(2007)外国語と教育課程(Ⅰ)

- 教育部 『初等学校教育課程』入手先 〈http://www.kice.re.kr/ko/board/view.do?article_id=60421&menu_id=10134〉(参照 2010-01-10), 1997 年
- 師子鹿元美 (2009). 「韓国における早期英語教育－釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修プログラムを通して－」『別府大学短期大学部紀要』28、2009 年、pp.71-80
- 樋口忠彦「諸外国における小学校外国語教育」樋口忠彦 (編)『これからの小学校英語教育－理論と実践－』研究社、2005 年、pp.1-33
- 樋口謙一郎「韓国－英語教育政策の経緯と論点」『小学生に英語を教えるとは？アジアと日本の教育現場から』めこん、2008 年、pp.123-136
- 文部科学省 『小学校英語活動実践の手引き』開隆堂、2001 年
- 文部科学省 a『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、2008 年
- 文部科学省 b『中学校学習指導要領 第 2 章 各教科 第 9 節 外国語』入手先 〈http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gai.htm〉(参照 2010-01-10), 2008 年